

第一次上海事変

昭和七年

2月23日 午後十時三十分、第三十二動員一号ノ一下令。動員第一日は二月二十四日と定めらる。

2月24日 午前一時三十分、准士官以上を集合せしめ、戦時職務を命課す。巻末職員表の如し。

26日 午後一時零分、賀場宮〔かやのみや〕恒憲王殿下、動員業務御視察の為、御来臨あらせらる。

午後五時二十分、動員を完結し師団に報告す。

聯隊本部・第一大隊・歩兵砲隊は、午後十時三十分屯営出発、征途に上る。沿道には市民充満し、戸々国旗を掲げて行を壮にす。将士の意気衝天の概あり。

午後十一時、第二大隊、亦屯営を出発す。

27日 聯隊主力の第一次輸送部隊たる聯隊本部・第一大隊・歩兵砲隊は正子、同第二次輸送部隊たる第二大隊は午前零時四十分丸亀駅を発し、小松島に向ひ汽車輸送、夫々午前四時四十分、同五時二十三分小松島に着す。

午前六時、左の区分に依り巡洋艦に乗り、午後四時小松島港を発し、直路揚子江に向ひ航行す。

乗艦区分

軍艦足柄 聯隊本部、第一大隊、歩兵砲隊、第七中隊

軍艦木曾 第二大隊（第七中隊欠）

28日 第三大隊は午後七時三十分屯営を發し、詫間に向ふ。

29日 午前六時三十分、揚子江口泊地に進入し投錨す。

師団命令に依り、第二大隊（第七中隊欠）は師団の予備隊となり、歩兵第十二聯隊（第二大隊《第七中隊欠》欠、第三大隊欠、山砲兵一小隊附す）は、師団左翼隊として聯隊長中村鐵蔵、之を指揮す。午後五時二十分、左の如く駆逐艦及宣揚丸に移乗す。

軍艦睦月 聯隊本部・第一大隊（第二・第三中隊〈一小隊欠〉）

宣揚丸 第二中隊・第三中隊（-一小隊欠）・第七中隊

午後十時、揚子江口、地を發し、瘍子江を遡り七了口方面に航行す。第三大隊は、午前十一時三十分、生駒丸にて詫間港を出発す。

3月1日 午前三時七了口正面錨地に投錨し、発動艇の來着を待つ。午前四時三十分七隻の発動艇來着と共に移乗を開始し、同五時二十分第一回上陸部隊の移乗を完了し、午前五時三十分より七了口に上陸を敢行す。斯くて聯隊は河岸附近に防禦しありし敵兵を駆逐し、午前七時二十分全部の上陸を完了し、師団予備隊たる 第二大隊（第七中隊欠）亦午前七時四十分上陸を完了す。

爾後聯隊主力は敵を追撃しつゝ、師団命令に基き、瀏河鎮方面の敵を攻撃す

べく王宅附近に向ひ前進中、茜涇營附近に於て右翼隊の攻撃に協力せしが、会々日没となり茜涇營東方約八百米なる陸家宅に停止して至嚴なる警戒下に夜を徹し、第二大隊（第七中隊欠）は依然師団予備として茜涇營西南側附近に位置す。

2日 午前六時二十分、聯隊主力は瀏河鎮方面の敵を攻撃する目的を以て前進を開始す。

我攻撃前進間、敵は退却せしを以て、午後在時三十分何等敵の抵抗を受くることなく、瀏河左岸を占領し、主力を瀏河鎮東側に集結し、一部を以て東部橋梁及右岸を占領し、敵情・地形を搜索す。

師団は敵を嘉定に向ひ追撃するに決し、聯隊の主力は其左追撃隊となり、午後六時瀏河鎮より嘉定に通ずる小流の右岸を、先づ登橋鎖に向ひ追撃、第二大隊は依然師団主力として同小流左岸を嘉定に向ひ追撃す。

3日 午前二時雍石橋附近に到着せしも、敵情・地形全く不明なる為、天明を待つに決し大休止をなせり。

天明後、土人を集めて調査せし結果、漸く現在地及嘉定附近の地形に関し知るを得、午前九時三十分再び登橋鎖に向ひ前進す。

前進中、午前十一時二十分登橋鎮北方約二千米の地点に達し、第一線たる第一大隊の報告に依り、嘉定附近には機関銃を有する約百名を下らざる敵兵あるを知り、前進を続行す。

午前十一時五十分登橋鎮北端附近に達し、第一大隊（第二中隊欠、歩兵砲附す）を第一線とし、第二・第七中隊を予備として攻撃を開始す。

敵は高さ約十米の城壁をたのみ、機関銃及小銃を以て我を射撃せしも、我第一線及機関銃・歩兵砲等の射撃に依り一時沈黙せり。然れ共、頑強なる城壁に依る敵は、容易に退却するに至らず、我第一線は敵前三百米の地点に停止しあり。午後三時、現在地附近に於て敵を監視しつつ右追撃隊及配属砲兵の来着を待つに決し、午後五時夜間の配備に就き夜を徹す。

第二大隊（第七中隊欠）は追撃前進中、婁塘鎮附近に於て陣地を占領せる敵に遭遇し、大隊全力を以て之を攻撃し、遂に撃退す。此夜嘉定城北入口附近に宿営す。

第三大隊は午前四時揚子江河口に到着、続て午前六時三十分より揚子江を遡り、午前十時三十分七了口沖に投錨午前四時三十分上陸を完了す。

本日の戦似死者、左の如し、

第一大隊方面 戦死者無し。負傷者兵一名。

第二大隊方面 戦死者特務曹長三木恒太郎、兵五名。負傷者兵七名。

3月4日 至嚴なる警戒下に夜を徹したる聯隊は、午前六時稍前より前進を開始す。

午前六時頃、第一大隊の右第一線たる第一中隊の一部は、東門と北門の中間城壁の一部を占領し、其報告に依り城内の敵は退却せるを知る。此に於て聯隊の第一線は城内に進入し、予備隊を東門附近に集結す。午後一時より第七中隊に命じ、嘉定城東北方の便衣隊及残敵の掃蕩をなさしめ、該中隊は敵約三四十名を東北方に撃退す。午後五時より嘉定城に於いて聯隊本部・軍旗及混成一中隊を以て入場式を行ふ。此夜、概ね昨日の態勢を以て登橋鎮附近に宿営す。第三大隊は、午前八時五十分瀏河鎮に到着し、一小隊を残置して嘉定に向ひ前進。午後一時シンカオン東北側附近に於て敵敗残兵約八十名を撃退し、午後三時半嘉定に到着す。

本日の戦死者、左の如し、

第一大隊 戦死 一名 負傷 四名

第三大隊 負傷 一名

5日 師団守備勤務に就くに当り、聯隊（第三大隊欠）は師団主力として瀏河鎮に位

置すべく命ぜられ、第三大隊は羅店鎮守備隊となる。

聯隊本部・第一大隊・歩兵砲隊は、午前八時宿営地を発し、午後五時瀏河鎮に全部の集結を終る。同時に第二大隊を手裏に掌握す。

6日 午後三時、二等獣医杉尾石松以下人員七十四名・馬五十二頭、宿営地に到着す。

7日 二宮大尉の率ふる三十五名、戦場掃除の為、嘉定に至る。大坪大尉の率ふる第二・第五中隊、七了口守備隊として出発す。歩兵第四十四聯隊の師団復歸に伴ひ、聯隊は羅店鎮守備隊となり、午後四時瀏河鎮を発し、午後八時全部の移転を完了す。第三大隊、聯隊長の指揮に復歸す。

3月9日 午後一時より師団戦没者の慰霊祭を瀏河鎮に於て举行せられ、聯隊長・軍旗及び第二・第五・第六中隊より混成せる一中隊（長第六中隊長福永勇吉）、之に参列す。

七了口に派遣しありし第二・第五中隊、復歸す。

12日 第九師団方面戦跡見学の為、左記人員江湾方面に出張す。

3月14日 第九師団方面戦跡見学の為、左記人員（将校三名）上海方面に出張す。第二大隊より小銃一分隊を出し、発電所を守備せしむ。

15日 正午、南村守備隊江藤少尉以下三十二名は、佐伯特務曹長以下□□□〔数の記載なし〕名と、又、新丹宅守備隊たる佐藤少尉以下□□□〔数の記載なし〕名は、藤崎少尉以下四十一名と交代す。

16日 午後一時より、聯隊戦没者の慰霊祭を举行す。

師団命令に依り、復員令を伝達せらる。

17日 第三中隊兵一名、便衣隊らしきものに狙撃せられ負傷す。
午後二時、第十四師団中地区隊の一小隊と守備の交代を終る。

19日 午前七時三十分、聯隊長将校全員を集合せしめ、左記聖旨並に令旨を伝達す。

聖旨

天皇陛下ニ於カセラレテハ軍司令官以下一同カ今回ノ上海事変ニ際シ陸海軍協同シ果敢ナル行動ニ依リ 克ク国軍ノ精華ヲ発揚シ以テ居留民ノ保護權益ノ擁護等重要ナル任務ニ服シツヽアル労苦ハ深ク之ヲ察ス
武官ハ能ク其状況ヲ視察シ参レ尚時勢ニ鑑ミ各自一層自愛シテ其責務ヲ全フスル様申伝ヘヨトノ聖旨ニ被為在〔アラセラル〕

令旨

皇后陛下ニ於カセラレテハ軍司令官以下一同カ数多危険ヲ冒シテ克ク困難ナル任務ニ服シタルコトハ随分労苦ニ思フ殊ニ死傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス今後モ各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク労ハリ遣ハセトノ令旨ニ被為在帰還の為聯隊（第十・第十一中隊欠）は午前八時五十分、羅店鎮発、大場鎮を経て上海に至る。午後七時、上海共同租界東洋紡績会社に到着し宿営す。

恩賜の煙草及御下賜金を拝受す

3月21日 聯隊本部・第一大隊・歩兵砲隊は吳淞にて阿蘇丸に、又第二・第三大隊（10・11中隊欠）は上海にて瑞光丸に乗船し、夫々午前十一時吳淞港及午後二時上海港を發し、帰還の為の航行に移る。

22日 第十・第十一中隊、上海出發。海祥丸にて帰途に就く。

24日 午前六時、似島沖に到着し投錨。檢疫及税関の検査等を実施し、午後十一時人員・貨物の搭載全部を完了す。

25日 午前三時十分高松に向ひ出帆。午後一時三十分高松着。

26日 午前七時二十分より人員の上陸を開始し、午前九時完了。

聯隊本部・第一大隊・歩兵砲隊は午後零時三十分、第二大隊・第三大隊（第十・第十一中隊欠）は午後一時五十分、高松發。夫々午後一時二十二分及同二時四十二分丸亀着。午後三時三十分聯隊（第十・第十一中隊欠）の集結を終り、茲に出兵以来一ヶ月其の任務を達成したる聯隊は、屯營に帰着せり。

3月27日 第十・第十一中隊は、本日帰還す。

28日 午前十時より将校集會所に於て慰靈祭を行ふ。

31日 午後一時零分、復員を完結し、師団に報告をなす。

本出兵間に於ける聯隊の死傷者左の如し、

戦死准士官一、下士官七、負傷少尉一、下士官一三、